

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達と共に生活していく中で、穏やかで安心できる暮らしを実現させ、近所の景色の移ろいを肌で感じていただき、四季を楽しんで頂いています。	○	ホーム自体の理念を柱として、職員一人一人の理念を考え、より細かい心配りを気掛けています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に理念を見直しており、日々の現場でも理念に沿ったサービスを提供できる様に指導しています。 また、勉強会でも「自分振り返り」として、理念や自分のサービス提供のあり方について見つめ直しています。	○	当ホームの理念と共に各自それぞれ自分の理念を掲げており、その理念に基いたケアが定着するよう努力していきたいところです。又、自分の1日の振り返る習慣をつけるために記録ノートを作成し取り組んでいます。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	各フロアに掲示しています。家族交流会や面会時など理念について説明したり、伝えるように心掛けています。又、広報誌にて理念を紹介してご家族にお渡ししています。	○	地域の集まりや行事の際に、グループホームについての理念を深められるように話をしたり、取り組みたい事や役割なども伝えていきたいと思えます。
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員には挨拶をするように徹底しています。行事を通して顔見知りになった近所の方々や、買い物で顔見知りになったお店の人、近所の子供が遊びに来てくれます。また、散歩へ出かけた時は挨拶を心掛けています。	○	ぐる一ふほ一むのご入居者、スタッフのことを知って頂きお互いに顔なじみになり、気軽に立ち寄り遊びに来てもらえるような関係を築いていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事へ参加し、グループホームでの行事にも参加して頂いています。敬老会では、踊りを披露して頂いたり、ソフトボール大会にも地域の一員として参加しました。また、消防活動にも参加しており、お互い協力し合える関係づくりに取り組んでいます。	○	今後も運営推進会議などを通して地域行事や活動予定の情報を教えて頂き可能な限り参加、協力をさせて頂きたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に向けた健康教室をグループ内事業所と開催している。	○	今後も引き続き地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを話し合い健康教室当を開催して行きたいと思っています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員其々が実施する事で、自分ができるような取り組みをしてきたかの振り返りができることを説明しています。又、前回の評価を踏まえて改善策を検討し、質の向上に努めています。	○	前回の外部評価で指摘いただいたことを実践の場で活用していますが、より良いものを目指してさらに改善に努めています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご入居者やサービスの実際、状況、活動内容等について報告や話し合いを行い、ご意見を頂き、家族交流や地域への取り組み等、サービス向上に活かしています。	○	参加された方々だけでなく、他のご入居者・ご家族・地域の方の意見も聞き、反映できる様に働きかけたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは、会議の場以外でも、地域の活動やその他、ネットワーク活動を通じて質の向上を目指しています。	○	協力出来る事は積極的に今後も取り組んでいきたいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度の勉強会に参加しています。また、要望があったご入居者には成年後見制度を活用していただいています。ご家族からの依頼で書類作成や情報提供など全面的に協力させて頂きました。	○	今後も必要と思われる方へは提案等おこなっていくと共に、勉強会へも参加して行きたいと思っています。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、参加できなかった職員にも報告書を見て学んでもらっています。また、勉強会で「自分振り返り」を行い、虐待防止等に関しても見つめ直しています。	○	身体拘束ゼロ推進委員会を立ち上げましたので、これから内容を充実させていきたいと思います。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を用いながら説明を行い、その都度質問や疑問に思う事を聞きながら理解を得ています。また、その場で了承していただくのではなく、もう一度ゆっくりと文書を読み直していただいてから、後日質問や疑問等ないかを確認しています。	○	充分、且つ確実に理解・納得して頂ける様に、明瞭・短的に説明を行なって行ける様に取組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも何でも話してほしい旨常々伝えており、ご入居者と職員間でコミュニケーションを図るようにしています。また、運営推進会議の場で外部者に意見が表せる機会を設けています。	○	意見や苦情など言いやすい雰囲気を作る、出された意見に対し速やかに対応し、不満の解消につなげるという姿勢を忘れず向き合っていきたいです。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の様子や健康状態などお伝えしています。また、気になることはないか尋ねたり、コミュニケーションを心掛けています。	○	遠方のご家族やあまり面会に来られないご家族に対して、ホーム便りの作成をして報告に活かしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議で意見・要望を言って頂き、会議で検討し、できる限り早急に対応しています。	○	意見箱に書くまでもない内容であったり、運営推進会議に参加せず意見を出す機会が少ないご家族に対しても、意見を出し易くして行くために、コミュニケーションを密にしていける様に取組んで行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションを密にして意見や要望をくみとったり、スタッフミーティングを利用して皆で話し合うようにしています。	○	細かな事でも意見を言い合える様な関係や機会作りを取組んで行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時に応じて、他フロアから応援に来てもらう様にしています。	○	病院送迎等で職員が少なくなる時間帯ができています。介護度の重度化に伴い、職員の数が手薄にならない様に検討して行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットを越えた勤務体制を徐々に行い、どのご入居者にも馴染みになっていただき、ユニット異動があってもダメージを防ぐ努力をしています。	○	急な異動でも対応できる様に、他フロアのご入居者の対応・声かけを共有して行ける様に取組んで行き、ご入居者へのダメージを防いで行きたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修の案内を皆に伝達し、参加が可能であれば参加するよう促したり、スタッフ同士で誘い合ったりしています。また、個人の能力に合わせた研修への参加を行っています。	○	より多く勉強できる機会を増やして、認知症介護に必要な知識や情報を学んでいけるように取組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話などで情報交換し、ご入居者へのサービスや職員育成などについて意見交換をしています。 また、グループホーム連絡協議会などにも参加し、交流やサービスの質の向上に取り組んでいます。	○	多くの職員にグループホーム連絡協議会などへの参加を促し、事例や地域交流、様々な取組みなどの情報交換を行なって行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と業務やご入居者対応で悩みや問題がないか個別に声をかけ、話すようにしています。親睦会なども行ない職員間の交流も図っています。 また、希望休などにも可能な限り答え、ストレス発散できるような環境づくりに取り組んでいます。	○	個別のカウセリング等を行なう機会を作り、職員のストレスを少しでも軽減できる環境づくりを整えて行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けて支援を行なっている。運営者も頻りに現場を訪れて職員の努力や勤務状況などの把握に努めている。	○	職員一人ひとりの長所を見出し、伸ばして行けるような指導を行い、向上心を持って働けるように取り組んで行きたい。
	<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行ない、グループホームがどのような所であるか説明する事と見学をして頂いて不安などお聞きしています。	○	話をする時はリビングなどの人が大勢いる所ではなく、居室や事務室を使用し、ゆっくりと話を聞くようにしたり、ご家族が相談しやすいような環境にしたりスタッフとの信頼関係作りに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申込みの時点で詳しく説明を行い、相談を受けています。又、些細な事でも相談して頂く様にお伝えしています。	○	ご家族の表情や言葉等細かなところにも注意を払い、思いを感じとるように努め、ご家族に気軽に話していただける関係を築けるような機会作り、話しやすい職員、環境を作って行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、他のサービスの説明も行い、選択肢を広げています。	○	必要時には、可能な限り早急に検討し、結果をご入居者やご家族に確実に報告できるように取り組んで行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人さんと話をする機会を設け、気持ちを汲み、不安が軽減できるような声掛け、説明を行なうようにしている。	○	入居されてからも職員が関わりを持ちながら、他ご入居者との間に入り、馴染んで行けるように取り組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人・される人としてではなく、共に生活していく者同士としてお互いを助け合い、補い合いながら毎日過ごすように心掛け、常に感謝の気持ちを伝えるようにしている。	○	ご家族の状況の変化やご自身の体調の変化等で一緒に泣いたり笑ったりしていますが、ご入居者とよく語り合っ、喜怒哀楽を共にして行きたいと思います。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の、入居者に対する想いを受け止め、それを支えていく為にスタッフも協力させて頂きますという気持ちを伝えていくようにしている。	○	ご家族とスタッフが同じ想いで入居者をケアしていけるような絆や信頼関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族への行事への参加を呼びかけるなど、ご入居者とご家族と一緒に過ごせる様な機会づくりに取り組んでいます。また、ご入居者とご家族と一緒に外出・外泊できる様に話し合いをしています。	○	外出や行事等への参加を多く呼びかけ、ご入居者とご家族が共に過ごせる機会づくりに取り組んで行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた人間関係、生活習慣を把握しコミュニケーションを計ったりして関係や習慣が途切れないように努めている。	○	本人の馴染みの場所、知人等に会いに行ったり継続的な交流が出来るような働きをもっとしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつの時間にはスタッフも一緒に会話を持つようにしたり、新聞折り・広告折り等を通して利用者同士の関係を深めて行くよう努めている。	○	入居者同士の支え合いをもっと引き出して行き、本人の気持ち意欲をもっと出せる様な場面を作ったりその人の個性をうまく活かすようにしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同法人内の病院へ移られた方々に対してはお見舞いに行ったりスタッフ間で情報交換等して継続的なお付き合いを心がけ実施している。	○	他事業所へ移られた方に広報誌を送ったり行事へ招待したりとせっかく出会えた縁を大切に關わって行きたい。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に何か悩みはないか、今困っていることはないかなどを聞いたり、ご家族からの意見、要望を聴きケアプランを検討しています。	○	日々の観察を十分に行い、何が悩み、楽しみ、苦しみ、悲しみなのを見極め、本人との関わりを多く持ち、本音を話せる関係を作るように努めています。ご家族からもご本人に対する色々なご意見を話していただけるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人より、アセスメントをとり、日常生活の会話の中で、これまであった色々な出来事など知ることができるように努めています。	○	随時、知り得たことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりにあった過ごし方、できること、習慣に目をむけ、その方らしい姿を把握するように努めています。	○	随時、気づいたことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人及びご家族に要望や意向を聞き、可能な限りそれらを反映させる計画を作成するよう心掛けている。ミーティングや日々の勤務の中でスタッフで意見を出し合い検討している。	○	その人らしく生活していけるような利用者本位のポジティブプランの作成を気がけていきたい。ご家族にももっと参加して頂けるような関わりをしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろんの事、入退院後やレベル変化がみられた際には状況に応じたケアが提供できるよう見直し、新しい計画を作成している。	○	状態が安定している方に対しても密に観察を行ない、少しの変化にも対応できるようなプラン作成に取り組んでいきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてサービス提供を行なったか、又日々の生活の様子とともにキラリと光るエピソードや名言等記録に残すよう心がけている。具体的かつ簡潔な記述で見やすい記録を気掛けていく。	○	確実に記録確認をスタッフが行ない、情報共有に活かしていく。その情報をもとに介護計画の見直しに活かしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、ご家族のその時の要望に応じ通院・送迎等行い、医療連携体制の機能を活かし迅速に対応しています。又、他の病院受診の場合も移送サービスを行い定期的に受診して頂いています。	○	医療連携体制の機能を活かし、体調不良の早期発見や対応、入院の場合も早期退院できるように健康面でも柔軟な支援をしていきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で地域の方々が協力できる事を検討しています。また、消防署とは連携を図り支援して頂ける事になっています。	○	今後、ご本人との地域の接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向により透析前にリハビリをして頂いたり、訪問歯科診療や美容サービスを利用しています。	○	ご入居者の意向に沿ったサービスがないか模索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂き、話し合いや検討を行ない、協働できるように取り組んでいます。	○	今後も地域包括支援センターと協働しながら、地域支援ネットワークを築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、基本原則としてご家族に対応して頂いていますが、受診前後にご家族と情報交換を行ったり、必要時には、かかりつけ医に電話連絡をし、助言を頂いたり情報交換を行ない関係を築けるように取り組んでいます。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関に専門医が入っているので、必要に応じて相談や受診等行なっています。	○	専門医から診断や治療、対処法などの指示を受けている。 今後も信頼関係を築きながら相談に応じて頂けるよう努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職の職員が勤務しており、ご入居者の健康管理や介護職員の相談を受けています。また、法人他施設の看護職とも情報を共有しており、24時間体制で主治医・看護師が対応できる体制を作っています。	○	全入居者の状況把握のためNsミーティングを定期的にかけて情報共有に努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院した際は、医療機関に情報を提供しています。また、定期的にお見舞いへ行き、状況の確認や医療機関との情報交換や相談を行ない、早期退院できるように取り組んでいます。	○	家族の方とも連絡を密にとり情報交換、状況把握をしながら入院中もご入居者、ご家族を支えていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の主治医、看護師等と話し合いを持ち、看取りの指針を作成し、契約時に説明し同意を得ています。	○	ご家族・医療機関と情報交換を密にして、体制を万全なものにして行きたい。 また、勉強会の機会を多くもち、職員のスキルアップに取り組んで行き、職員が不安を持たないようにして行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでのターミナルケアについて知識や理解を深める勉強会を開催しました。職員全体で率直に検討していく準備を行なっています。	○	ご家族・医療機関との情報交換を密にして、体制を万全なものにして行きたい。 また、勉強会の機会をもち、職員のスキルアップに取り組んで行き、ご家族が安心してまかせられる様、職員が不安感を持たず自信を持って行ける様に取組んで行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人も交え、ご家族と十分に話し合いや情報交換を行ない医療機関の紹介・調整などをして、スムーズに新しい施設での生活が始められるよう努めている。	○	ご本人も交え、ご家族と十分に話し合いや情報交換を行ない医療機関の紹介・調整などをして、スムーズに新しい施設での生活が始められるよう努めている。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した対応や丁寧な言葉づかいや声掛け、介助の仕方を心掛けるよう徹底しています。個人記録に名前を書く時にはイニシャルで書くようにしています。1日の終わりに自分振り返りのノート記入にも取り組んでいます。	○	定期的に勉強会で自分振り返りを行なっている。又、1日を振り返りチェック項目に基いてノートに書くようにしている。これらを行ないながら、意識向上を図り、スタッフ間で注意しあえるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者にあつた声掛け、対応を心掛けています。意思表示が困難な方の場合でも表情を読み取り本人が決める場面を作るようにしています。	○	何かを訴えており理解するのが困難な時、時間をかけてゆっくり話を聞ける環境を作るようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の体調や気持ちに配慮し尊重しながら接するようにしている。基本的な1日の流れはあるもののそれにはめ込むような過ごし方はせず、出来るだけ個別性のある支援を心掛けています。	○	介助する際自分のペースにならずに本人のペースに合わせるよう心掛けている。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着たい服を選んだり、スタッフが一緒に選んだりする等しておしゃれをできるように支援している。毎月、訪問美容サービスにて本人の希望に対応している。	○	外出の際にはお化粧をしたり、身だしなみを整えて気分を盛り上げていただいている。また、持っている洋服が少ない方に対してはご家族に声掛けしたりお願いをしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から食べたいメニューや希望を聞いて献立に取り入れるようにしている。お手伝い(食事作り)にも参加して頂き、ご入居者・スタッフが同じテーブルで食事をし、楽しい雰囲気作りに努めています。また、お誕生日にはその方の好物のメニューでお祝いをしています。	○	食材切りや盛り付け等出来る方にはお手伝いして頂いて、その話題に触れながら食事の際スタッフやご入居者間で会話をしたりして、感謝の気持ちを伝える事も忘れないようにしています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近くのコンビニエンスストアへお散歩も兼ねて好きなおやつやジュース類を購入しに行っている。	○	病気の為、制限がある方々が同フロアにいらっしゃるの、その方たちへの配慮も忘れないようにしながら支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を見ながら排泄間隔を把握し、誘導を行なっている。尿意・便意が確実でない方でも何らかのサインを見逃さないように観察し、スタッフ間での情報共有に努めている。	○	失敗してしまっている時に他入居者や周囲の人に分からないように速やかな対応を行ないたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな予定は組んでいるものの、入浴時にはご本人に希望確認してすすめている。予定日以外でも希望されれば応じるようにもしています。可能な限り、本人さんの希望に合わせるようにはしているが平等にするため順番制にしている曜日もあります。	○	入浴があまり好きではなく、協力的でない方に対しても声掛けを工夫したり二人介助で対応するなどして支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動・覚醒を促し、生活のリズムを整え夜間の安眠を促している。カーテンを閉めたり、夜である雰囲気づくりをしている。一人ひとりの体調や表情・希望等を考慮してゆっくり気持ちよく休息できるよう支援している。	○	メリハリのある生活リズムを整えられるよう一人ひとりの生活習慣や活動を検討して支援していきたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の出来る事や得意分野を見出し、その力を十分に発揮できるような場面作りに努め、感謝の言葉を忘れずに伝えるようにしている。	○	こちらから声掛けして促さなくても、自ら「楽しいから」「したいから」と自発的に行なってほしい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者の中には自分で財布を持っている方もおられ、散歩の時に持参したり、財布を持つ事で安心・満足しているケースもある。	○	預かり金の中から支払う時でも本人さんの財布から支払いをして頂くように準備するなど工夫していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩したり、ドライブに出掛けるなどして外へ出てリフレッシュしたり、季節を感じていただける機会を作っている。	○	ご入居者やご家族から情報収集し、地域の中でその方の馴染みの場所を見つけ、一人ひとりに合った地域とのつながりや喜びを提供していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くに外出する時は事前に計画を立てて職員の勤務を調整し、実施している。	○	一人ひとりの希望や願いが実現できるようにご入居者、ご家族の方と相談・協力しながらスタッフも調整して支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスを使用しており居室で人目を気にせず会話出来る様にしている。ご入居者の希望に応じハガキや手紙を出す為に代筆を行っている。手紙が届いた際には本人さんに渡し必要に応じて読んで差し上げている。	○	耳が遠い、発語が少ない等の方に電話がかかってきた時、相手の方と話が出来る様サポートしたい。手紙やハガキも一緒に文章を考えたり、代筆する等して大切な人たちとのつながりを深めるお手伝いをしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人やご家族の馴染みの人達には気軽にいつでも訪れられるような雰囲気を中心掛けており、自然な形で歓迎している。他のご入居者に気兼ねなく過ごして頂けるよう居心地の良い空間づくりを心掛けている。	○	いつでも笑顔でご家族の方を迎えるようにしている。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会や研修などに参加し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	ベッド柵やセンサーマットを使用せずに転倒を防げるように勉強会や研修などに参加し、ミーティングや日々の申し送り等で話し合うようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を確認し、統一し、また一人ひとりのその日の気分や状態を観察し、スタッフ間で情報共有する事で日中は玄関の鍵を掛けないで自由な暮らしを支援しています。	○	ご入居者が外に出ようとしていたら直ぐに止めるのではなく、どうして？どこに？どのような状況で？と考え、よく話をしてベストな対処法で支援したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認をこまめにし、出て行こうとしていたらさりげなく声を掛け気をそらせ見守り、一緒に付き添う等して安全に配慮している。スタッフが連携し、自分の所在地を告げてから動きリビングにスタッフが不在にならない様に徹底している。	○	スタッフ間で連携を図り、全職員で確実に今後も行なっていく事で安全確保したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や包丁、洗剤等の注意の必要な物は保管場所を決めて、職員実行している。御自分で管理、使用できるものは自由に使えるようにしている。	○	注意の必要な物はご入居者の目に届かないところに保管し、管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会等で知識を深めたり、各種マニュアルを作成し、いつでも確認できる様にしています。また、予防措置を検討し、事故を未然に防げる様に取組んでいます。	○	事故発生の際に報告書を作成し、話し合いをし、再発防止に努めている。また是正処置の効果の確認も必ず行なうようにしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会等で知識を深めたり、各種マニュアルを作成しています。また、急変・緊急時マニュアルも作成しており、医師・看護師と24時間連絡・対応が取れる様に備えています。	○	定期的に勉強会で応急手当や救命講習を行ない、職員全員が対応できる様に取組んで行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しています。年に2回の消防訓練を行ない、初期消火・通報・避難誘導の周知徹底や勉強会で知識を深めています。また、地域での消防活動に参加したり、運営推進会議の場で協力を呼びかけています。	○	現在、地震・風水害に対するマニュアルも作成中で、今後は、防災訓練として取組んで行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご入居者1人1人に起こり得るリスクについて、面会時にご家族には近況報告とあわせて行なっている。その際ご家族の意向も伺い、対応策を話し合っている。	○	個別的に起こり得るリスクを把握し、定期的な見直しを行いご家族にも対応策を説明して、話し合っている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや記録を読み普段の状況を把握し、顔色や様子の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い記録をつけている。変化の状況によっては看護師に報告し、医療受診につなげている。	○	体調や些細な表情を見逃さないように、観察・見守りを徹底して早期発見に取り組んでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者1人1人の薬についてのマニュアルを作り、職員がいつでも内容を把握できるようにしている。薬の変更があった時は、申し送りや日誌に記録する様にしている。	○	誤薬を防ぐ為に、服薬時は必ず職員同士で、日付と名前の確認をしてから本人に渡すように取組んでいる。薬情書を見る習慣をつけたり、毎月のミーティングで薬の勉強を行なっており、より一層の職員の知識の向上に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然な排便ができるよう常に野菜や水分摂取、運動を促しているが、それでも何日も排便がない場合、下剤を服用してもらっている。自力での自然排便が困難な人には定期的の下剤を服用してもらっている。	○	なるべく全員自然排便が出来るように、繊維質の多い食材を使用した献立の工夫や適度な運動を働きかけるよう取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後1人1人口腔ケアの声掛けを徹底し、見守り介助を行なっている。就寝前には、義歯の洗浄消毒を毎日行なっています。歯科受診に行けない方には、毎月の訪問診療で見てもらっている。	○	口腔ケアの重要性をスタッフが理解する為にも、研修や勉強会に参加し、知識や技術を身につけて取り組んでいきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作成し、摂取状況を把握している。食事量低下した場合には、嗜好品で補ったり、ご家族からの差し入れで補うなどしている。	○	摂取量が少ない方には、個別に対応を考え摂取して頂ける食材やメニュー、調理法などで工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成・設置しており、感染症に関する資料を職員全員が確認できるようにしています。また、ご入居者・職員共にインフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス対策として塩素消毒やペーパータオルを使用する等の予防を徹底しています。	○	事業所内で起こりうる感染症について、全職員が研修や勉強会で学習し、予防・対策に取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁などの調理器具や布巾等、使用の度にハイター消毒し、清潔保持に努めています。冷蔵庫の中も定期的に清掃を行なっています。	○	冷蔵庫、冷凍庫の食材の残りをチェックして、期限の確認をこまめに行なっている。食中毒予防のマニュアルも作成し、それに沿って対応している。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を飾ったり、可愛いリスの置物を飾る等して目印にもなっている。花も季節によって変わるので、ご入居者や地域の通行人の楽しみにもなっている。	○	近所の人や、気軽にお喋りをしに来たり、お茶を飲みに来てくれるようなグループホームとなる様に、工夫していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから食事を作っている台所の様子が見えたり、包丁の音や料理の匂いなど、五感に働きかけています。又、ゆず湯やしょうぶ湯、おやつに柏餅、節分に豆や巻き寿司など、季節感を大切に取り入れています。	○	多くの時間を過ごす共用空間が安心できて、居心地のよい場所となるように整えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、気の合う者同士が語り合ったりできる場を作っている。季節を感じられるようなフロアのディスプレイにも取り組んでいる。	○	フロアの飾りなど、もっとご入居者の意見を聞き出したり、一緒に取り組んで作成していきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や、馴染みの物を持ってきて使用して頂いている。鏡台や椅子、仏壇等を置き、自宅と変わらない居心地の良さを作れるよう工夫している。	○	馴染みの物が入所時少なかった方に対しても、ご家族にお願いして持って来て頂いたり、買物に行って気に入った物を購入して、馴染みの物を増やしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレや居室は換気扇をつけており、居室にいない時は居室の窓を開けたり、リビングでも定期的に窓を開け、換気・空気の入替えを行っている。	○	個々で感じる温度、湿度には差がある為、冷暖房(常温のプラス、マイナス5℃を基本)の調節や、衣類の調節で発汗や冷えに対応している。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や段差、ベットの高さなど危険で事故に繋がる要因がないかチェックし、必要に応じて改善するなど努めている。	○	身体機能の変化等考慮して、ご入居者の状態に応じて環境整備や改善に努め、安全を確保していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口に写真と名札を貼ったり、トイレ入口に「便所」と記入しておいたり、分かり易い表示をしています。	○	1人1人の混乱を招くような環境の要因を捉え、それに対して速やかに補修する等工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにプランターを置き、花を植えている。水やりをして頂いたり、外の空気を感じながら花を見る事で気分転換を図る事にも繋がっている。	○	野菜を育てて、自分達で食べるという楽しみを作っていきたい。この作業を通じて他入居者同士やスタッフとの関わりが増え、笑顔で作業に取り組む、役割へと繋げていければと思う。



番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 ○ 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない